【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成20年10月2日(2008.10.2)

【公表番号】特表2008-510856(P2008-510856A)
【公表日】平成20年4月10日(2008.4.10)
【年通号数】公開・登録公報2008-014
【出願番号】特願2007-528068(P2007-528068)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｊ　7/04　(2006.01)
Ｂ８２Ｂ　1/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｊ　7/04　ＣＥＷＴ
Ｂ８２Ｂ　1/00

【手続補正書】
【提出日】平成20年8月18日(2008.8.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
その上にタンパク質性で両親媒性のコーティングを有するナノ細孔ポリマーを含むことを特徴とする複合構造体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５２】
（実施例４）
この実施例では、コートされたナノ細孔ポリマーの酸素透過度の驚くべき保持を示す。酸素透過度は、ＡＳＴＭ　Ｄ　３９８５－９５の手順にしたがって測定した。結果を表４に示す。これらの結果から、コーティングされていないポリマーの酸素透過度が非常に高いことが明らかである。ＨＦＢＩＩおよびＴＴ１（溶液中の濃度；１６μｇ／ｍＬ）のコーティングは、湿潤角を少なくとも４３％下げる一方、ポリマーの元々の酸素透過度の少なくとも８５％を保持している。
本発明は以下の実施の態様を含むものである。
１．その上にタンパク質性で両親媒性のコーティングを有するナノ細孔ポリマーを含むことを特徴とする複合構造体。
２．前記タンパク質性で両親媒性のコーティングが前記ポリマーの水湿潤性を増大させ、前記増大した水湿潤性が少なくとも１５°の湿潤角の低下で特徴付けられることを特徴とする前記１．に記載の複合構造体。
３．前記ナノ細孔ポリマーの酸素透過度の少なくとも８０％の酸素透過度を有することを特徴とする前記１．に記載の複合構造体。
４．前記ポリマーのナノ細孔が５ｎｍ以下の平均直径を有することを特徴とする前記１．に記載の複合構造体。
５．前記ナノ細孔ポリマーがフィルムであることを特徴とする前記１．に記載の複合構造

体。
６．前記フィルムがコンタクトレンズであることを特徴とする前記５．に記載の複合構造体。
７．前記ナノ細孔ポリマーが非晶質ポリマーであることを特徴とする前記１．に記載の複合構造体。
８．前記ナノ細孔ポリマーが疎水性であって、少なくとも９０°の湿潤角で特徴付けられることを特徴とする前記１．に記載の複合構造体。
９．前記ポリマーが非晶質フルオロポリマーであることを特徴とする前記８．に記載の複合構造体。
１０．前記タンパク質性で両親媒性のコーティングがハイドロフォービンであることを特徴とする前記８．に記載の複合構造体。